



## 世界と日本の 図書館事情

特集

『シャンティ』 通巻297号 2018年10月1日発行 (1・4・7・10月の1日発行) 1985年6月28日 第三種郵便物承認

## 巻末言 道



### 本を生きる力に

シャンティ国際ボランティア会  
理事 長倉シュタッフ牧子  
(株式会社FM BIRD 代表取締役社長)

昔はわからないことがあれば、図書館でなんでも調べたものですが、今は断然検索サイト。本を開くより先に、スマートフォンやPCを触ってしまう自分がいます。

さて、本を考えると、印刷という技術の進歩抜きには語れないといえます。印刷技術が進んだからこそ、情報の保存、証明、契約といった人の営みに大切なことが格段に進みました。ちなみに印刷は2世紀頃に中国で生まれたという説があり、世界最古の現存印刷物と言われる百萬塔陀羅尼(ひやくまんとうだらに)があります。仏教は印刷技術とともに、言語伝達の大きなページを進めていたのです。

シャンティが長い間アジアの子どもたちに届けている本は、人々の心の栄養となります。言葉を伝えることはもちろん、その責務は大変に重く、意義深さは計り知れません。

とはいえ、今後世界中のすべての本を紙で作ってしまうと、世界の木材にとって大きな損失になってしまいます。最新レポートによると、アメリカでは76%が紙書籍、21%が電子、3%



ミャンマー・テゴンの図書館 2015年撮影  
©Yoshifumi Kawabata

がオーディオブックという割合になっています(※)。実は、2007年に電子書籍が出た頃より紙書籍に戻る傾向があり、オーディオブック市場が成長を続けている点が興味深いです。

書籍や図書館は間違いなく素晴らしいシステムであり、“所有することにこだわらない時代”に生きる私たちにとって、インターネットは“大きな巨大電子図書館”そのものです。しかし、紙書籍は“感触”や“嗅覚”を刺激し、その先にある“愛着”という心のひだを育てることにつながります。「電子書籍を購入した人の7割以上は本を最後まで通して読まない」という研究結果を出したある先生は「電子書籍は、体に触れるという書籍読書行為を通して得られるある種の満足感に到達しないからではないか」と推測されています。これからの若い世代には、電子書籍と紙書籍をバランスよく生活に取り入れ、生きる術を身に付けてほしいと願うばかりです。

(※) Print vs Digital, Traditional vs Non-Traditional, Bookstore vs Online: 2016 Trade Publishing by the numbers - Author Earnings <http://authorearnings.com/report/dbw2017/>

あなたにとって「図書館」とは、どんな場所ですか？ 本を読むところ、落ち着ける場所、隠れ家……。10人いれば、10通り以上の答えがある「図書館」。日本では「本を読み、借りる場所」という印象が強い図書館ですが、スラム出身の子どもにとっては「心のオアシス」であり、難民キャンプでは「世界と繋がる唯一の場所」となっています。

国が違えば、図書館も違う。今回は、アジア各国の図書館の特徴や利用する人、働く人たちにとっての「図書館」をご紹介します。



## Shanti vol.297 CONTENTS

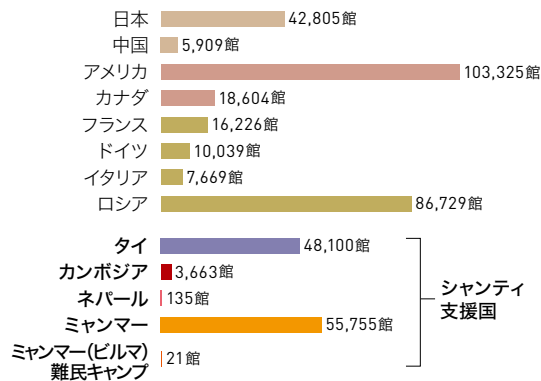
- 4 特集  
世界と日本の図書館事情
- 14 特別特集  
かこさとし先生が遺した  
世界中で愛される絵本たち
- 16 世界の絵本を読んでみよう  
「かすがいのステッキ」(ミャンマー 2016年出版絵本)
- 18 世界のおやつ旅  
ネパールのおやつ／パニプリ
- 19 世界の現場からAIRMAIL  
From 活動の現場  
▶ミャンマー  
▶ネパール
- 28 シャンティな人たち  
新宿区立 大久保図書館 館長 米田 雅朗
- 30 これがわたしの宝もの  
ネパール サンジャナ・タマン「農夫と水牛の話の本」
- 31 お知らせ／編集後記
- 32 道「本を生きる力に」  
シャンティ国際ボランティア会 理事 長倉シュタッフ牧子



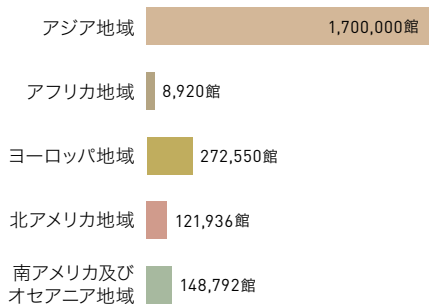
今号の表紙  
ミャンマー・テゴンの図書館にて。  
2015年撮影  
©Yoshifumi Kawabata

ミャンマー（ビルマ）難民  
キャンプ内の図書館での読  
み聞かせの様子  
2016年撮影  
©Yoshifumi Kawabata

## 主な国別図書館数

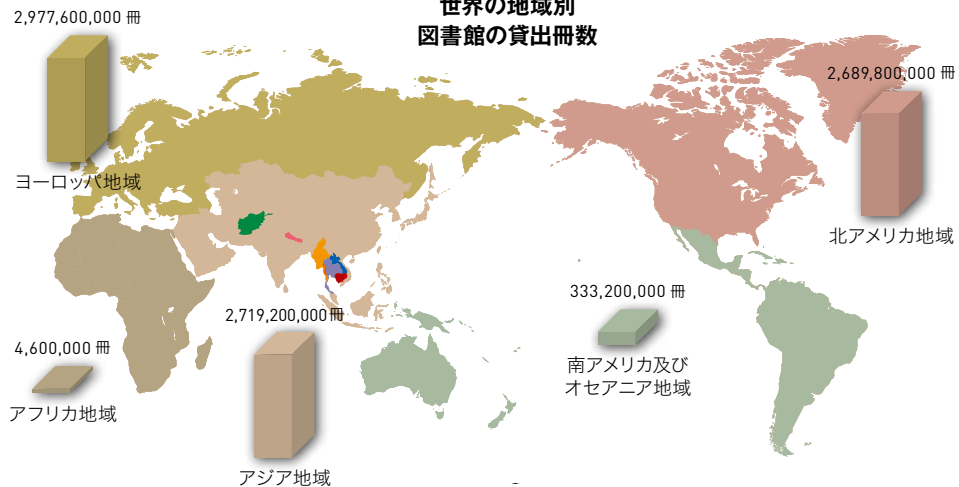


## 世界の地域別図書館数



※ミャンマーのみアジア財団 (The Asia Foundation) のレポートより。ただし実際に稼働しているとされるのは4,868館。

## 世界の地域別図書館の貸出冊数



引用元：Library Map of the World (国際図書館連盟：IFLA 作成)

社会状況によって、求められる図書館の役割は異なります。暗記教育が続く国では、考える力を育むために小学校での読書推進活動が必要とされています。内戦から逃れた難民が暮らす難民キャンプでは、情報が制限されているため、絵本を通して子どもたちは外の世界を知ることができず、内戦によって途絶えそうになる民話や民族の文化を守り、伝える事も図書館にとって大切な役割の一つです。小学校に通えず、読み書きができない大人、貧困などの理由により、小学校を途中で退学した子どもたちにとって、文字に触れ、学んだことをつなぎとめる場所が図書館であり、もう一度学ぶ意欲を取り戻す場所でもあります。

## アジア諸国における図書館について

160カ国・16000団体が加盟している図書館の国際組織、国際図書館連盟（IFLA）によると、いま世界では少なくとも約220万の図書館が存在しています。国によって図書館の数え方が違ったり、カウントされていない種類の図書館があったり、実際の数は多少増減するかもしれませんが、国や地域ごとに特色のある図書館サービスを展開しています。例えばアメリカでは、電子書籍を貸し出している電子図書館が95%以上を占めていると言われています。

# 世界と日本の図書館事情

特集





司書だより

チューン・  
ヴァナリーさん

子どもたちは図書館で自由に読書をしたり、歌や踊り、お絵描き、折り紙などを行っています。毎日多くの子どもたちが本を読むため、本がボロボロになってしまい、本の修理をするのが大変です。子どもたちが図書館で多くのことを学んでいる様子を見られることが何よりも嬉しいです。



人気の本：  
“Magic Grinder”  
(魔法の石臼)

※何度も読み返されてボロボロになっています。



「バナライ」(クメール語で“図書館”)

បណ្ណាល័យ

オー・タキ小学校 学校図書館

カンボジア



図書館名：オー・タキ小学校 学校図書館  
運営形態：公立学校  
蔵書数：1,599冊 (2017年度)  
利用者数：月1,695人  
(2017～2018年のうち8カ月間)



利用者の声

ヴット・リナさん (10歳)

週に3回は図書館に行きます。図書館員が読み聞かせをしてくれるのが好きです。カラフルな絵が出てくるお話がお気に入りです。この図書館で多くの絵本を読むことができました。

ようにしたことで、生徒たちは積極的に図書館を利用するようになりました。

学校図書館の特徴を活かし、毎日の授業と図書館活動を結びつけた取り組みも行っています。図書館で描いた絵を評価し、成績に反映させる

た。2015年には図書館員や生徒たちが日々の図書館活動の成果を披露する「おはなし&図書館大会」で、オー・タキ小学校の生徒が最優秀賞を受賞しました。翌年の大会でも最優秀賞に次ぐ2番目の賞を受賞しました。

1993年頃には図書館スペースが設置されていましたが、図書館員が十分な訓練を受けておらず、図書館運営は上手くいっていませんでした。蔵書数も限られ、子どもたちも来

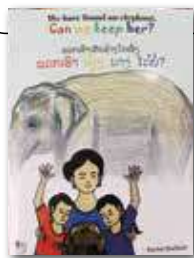
たがらないような図書館でしたが、2013年にシャンティの支援を受け、本棚や図書が揃った図書館が建設されました。2015年にシャンティの支援が終了した後も、学校が図書館の運営を引き継いでいます。現在、2名の図書館員が在籍し、それぞれが午前と午後を受け持ち、図書館運営を行っています。

▼設立経緯と図書館の特徴



司書だより  
チャンターさん

子どもたちは、生きる上で大切なことの多くを図書館で学んでいます。子ども一人ひとりの成長が垣間見える時こそ、私が図書館で働くことに一番幸せを感じる瞬間です。



人気の本：  
"Can we keep her?"



「ホーサムツ」(ラオス語で「図書館」)  
ຮູ້ໂຮງສື່ຂໍ້ຊຸກ  
ルアンパバーン県立図書館



図書館名：  
ルアンパバーン県立図書館  
蔵書数：16,000冊  
利用者数：学校開校期間(9月～5月中旬)は一日40人～50人、学校休業期間(5月中旬～8月)は200人以上



利用者の声

ノンサパットさん(13歳)  
本が私の世界を広げてくれました。



利用者の声

カンフンさん(14歳)  
図書館を通じてさまざまな経験ができます。

▼設立経緯と図書館の特徴  
2004年にワットマイ寺院の正面にルアンパバーンで初となる県立図書館が建設されました。それ以前は、シャンティが修繕支援をしていた建物の中に読書室があるのみでした。現在は7名の職員が駐在し、平日は8時～16時半、週末は9時～16時まで開館しています。図書館では、本の読み聞かせ、工作、歌遊びのほかにボランティアによる英語やフランス語などの外国語を学べる活動もあります。また、より多くのラオスの子どもたちに本を読むことの楽しさを知ってもらうため、図書館はポートヤトゥクトゥク(オート三輪車)を使って僻地にある村に移動図書館活動や本の寄贈を行っています。





ミャンマー

စာပေအိမ်  
「サーチーダイ」  
(ビルマ語で「図書館」)

ピー図書館  
運営形態：県立  
蔵書数：15,036冊 (2017年度)  
利用者数：約1,600人 (1カ月間)



アフガニスタン

کتابتون  
「キターブトゥン」  
(バシュトゥー語で「図書館」)

子ども図書館  
運営形態：私設  
蔵書数：3,318冊 (2017年度)  
利用者数：38,086人 (2017年度)



ネパール

पुस्तकालय  
「プスタカーラヤ」  
(ネパール語で「図書館」)

ラムチャンドラ基礎教育学校(小中学校)  
運営形態：学校の各クラスにある図書スペース  
蔵書数：各クラスに約120冊ずつ  
(シャンティが配布)  
利用者数：幼児クラスから5年生までの約130人



ミャンマー  
(ビルマ)  
難民キャンプ

ပတ်ဝန်အိမ်  
「リロダ」  
(カレン語で「図書館」)

メラウ難民キャンプ 第2図書館  
運営形態：難民キャンプ内教育部会が管轄  
シャンティが運営支援  
蔵書数：6,939冊 (2017年度)  
利用者数：31,091人 (2017年度)

1953年の設立当時は一般市民がラジオを買うことができなかったため、ピー図書館が唯一ラジオを聴ける場所となっていました。また、ピー図書館はピー県を統括する図書館で、国から送られてくる本をシステムに登録し、仕分けて各郡立図書館に配達する役割も担っています。

ジャララバード市内にある事務所に併設しています。周囲には2部制や3部制の学校が多く、登校前や放課後に子どもが大勢やってきます。経済的な理由で働かなければならない子どもたちにとって図書館は、路上での仕事(ゴミ集め)の合間に立ち寄る心休まる場所になっています。最近では、パキスタンから帰還し学校に通えない子どもの利用が増えています。

2015年に起きた地震の影響で校舎が倒壊し、2017年12月にシャンティの支援で新校舎が再建されました。防災教育の一環で、地震についての知識やどう避難するか紙芝居を制作し、演じ方のトレーニングをして配布しました。各教室には図書スペースがあり、授業で先生が本を選んで読み聞かせをしたり、子どもたちが自由に本を読むこともあります。

難民キャンプの閉鎖された環境下で、人々の尊厳やアイデンティティを保持するため、カレン語(母語)で書かれた本のある図書館として18年前に建設され、現在も運営支援を行っています。中は、子ども、大人、図書館員の3つの部屋に分かれています。図書館員が手作りの装飾を施すなど、各世代が気軽に本を楽しめる空間を作ろうとしています。



ドー・ネイン・ネイン・タンさん

移動図書館活動で地方に行く機会もあり、地域の実情を見ることができます。本を紹介し、知識を得る機会を提供することで彼らの経済的自立をサポートしていきたいと思っています。

司書だより

人気の本：  
「なんでも食べるおばあさん」  
(タイの絵本)



ガル・グティさん

ここにすれば好きな本で学ぶことができます。本は、友達です。ぜひたくさんこのことをここから学んで欲しいです。

司書だより

人気の本：  
「不誠実の結果(The result of untruth)」



サンタマヤさん(左)とマヌマヤさん(右)

1日1回は読み聞かせをしています。騒がしくしていた子どもたちも、読み聞かせを始めるとビタッと静かに集中します。

司書だより

人気の本：  
幼児クラスではネパールの童話絵本が人気です。先生と一緒に大きな声で読んでいます。



クルー・ネー・セイさん

本を管理する責任を常に持って働いています。皆さまのご支援のおかげで、図書館が地域のあらゆる世代にとって必要な存在になっています。

司書だより

人気の本：  
「ポットくんとミミズくん」  
(福音館書店)



### バンコクにあるスラムのコミュニティ図書館

シャンティは、バンコクのスラムにある3つのコミュニティ図書館を長年支援してきました。近年は、カンボジアやミャンマーなどから出稼ぎに来た家族の子どもたちが通う姿をよく見かけます。子どもたちは訳文シールを貼った絵本を通して母語に触れています。

### タイ

#### 利用者の声



図書コーナーを使う子どもたち一人て黙々と読んだり、声に出して読んだりします。

#### 利用者の声



ノー・ポー・ヌム・ソーさん(9歳)  
読み聞かせや手遊が歌が好きです。

「娘は難民キャンプに来て初めて、本を読むようになりました。私たち夫婦は読み書きができず、地名も道路標識もわかりません。行きたいところにも行けません。でも、子どもたちは読み書きができます。そのおかげで、自分の意思で生きるチャンスを得ました」と話す、タイ国境の難民キャンプで暮らすマー・ジーさん。娘さんが読み聞かせてくれるお話を聞くのが大好きで、お話を聞いて初めて自分の人生が動き出したように感じたと話してくれました。

アジアの国々では、紛争や貧困が理由で学校に通うことができない子ども、家計を助けるために働き続けなければならない子ども、戦闘から逃げる中で愛情を知らずに育った子どもたちがいます。しかし、図書館で出会った1冊の本が、その後の人生の道しるべになった子どもたち、図書館での読み聞かせて初めて人のぬくもりを感じる子どもたちもいます。図書館はマー・ジーさんのように、困難な状況にある人々が、希望と喜びを感じる居場所であってほしいと願っています。

まとめ

生きる力を育む  
アジアの  
図書館

広報課 課長  
鈴木晶子



「ぼくとクッキー さよならまたね」  
(ひさかたチャイルド)

図書館で1冊の本と出会い、  
生きる希望を  
見つけた人々があります。

図書館が  
あったから  
今の自分がある



タイ

ナット (22歳)

初めて図書館に来たのは4歳の時です。図書館は安心して過ごせる場所、私の人生にとってなくてはならない場所です。家庭環境が複雑で落ち着かなかったので、図書館に来ると安心できて、いつも来て絵本を読んでいます。今は娘と一緒に通っています。

「おおきなかぶ」(福音館書店)



カンボジア

チュン・ラタナ (14歳)

最初に図書館に入った時はとても嬉しかったです。たくさん本があって初めて見る本ばかりでした。学校に行かなくなってからも週に1回、村にできた図書館に通って、学校で学んだことを忘れないようにしています。



ミャンマー

トウラ・ナイン (11歳)

おばさんが図書館のことを教えてくれて、連れてきてくれました。最初に図書館に来たとき、僕は4年生でたくさん本があってとても嬉しかったです。僕は本が大好きなのでここにある本はほとんど読みました。新しい本が届くのを楽しみにしています。

「トンネルをほる」(ほるぷ出版)



難民  
キャンプ

ノーポーエクラ (14歳)

はじめて図書館に来たのは、13歳の時でした。それまで図書館がどこにあるのかわかりませんでしたが、友達が図書館に連れてきてくれました。最初に図書館に入った時、「わあ!こんなにたくさん本があって、自由に読めるんだ!」と幸せな気持ちでいっぱいになりました。

# かこさとし先生が 遺した世界中で 愛される絵本たち

絵本作家・児童文化研究者として活躍されたかこさとし先生が5月2日、92歳で逝去されました。絵本作家としての活動だけでなく、海外での識字活動にも積極的に取り組みられました。

## シャンティとの繋がり

シャンティはこれまでに「絵本を届ける運動」を通じて、かこ先生の絵本5,867冊をアジアの子どもたちに届けてきました。かこ先生の作品は、シャンティが運営するアジアの図書館で長年にわたり、子どもたちに愛されています。「ははのはなし」や「たべものたび」は、教科書が不足しているアジアで、わかりやすく体の仕組みを学べる貴重な教材としても喜ばれています。

## 本の力を、生きる力に。

いま世界では、7億7500万人の大人が読み書きできないと言われています。シャンティが活動を行っているアジア各国では、学校に通えず、本を知らないまま大人になってしまう人たちが少なくありません。

そんな現状に対し、シャンティは「本の力を、生きる力に。」をテーマに、安心できる場所をつくり、人を育て、本を読む機会を届けてきました。1999年から行っている「絵本を届ける運動」では、これまでに約29万冊の絵本を届けてきました。届けた絵本は子どもたちが何度も読み返すため、ポロポロになってしましますが、絵本に込められたメッセージは、時が経っても色あせることはありません。

本が子どもたちに力を与えることを信じ、長年子どもたちのために絵本を通して「生きる力」を届けてくださいました先生には、感謝の気持ちで一杯です。シャンティ一同、心からご冥福をお祈りいたします。



ドンドゥワン(ラオス・10歳)

「だるまちゃんとかみなりちゃん」が大好きです。もっと勉強がよくなるようになりたいです。私は学校の図書館にもっと物語の本があるといいなと思います。

絵本を  
手にした  
子どもたち



ブアワン(ラオス・11歳)

私は「たべものたび」という本が好きです。きれいな絵が出てくるからです。この本は私にいろいろなことを教え、楽しませてくれます。

## 子どもたちへの想い

2013年、かこ先生はシャンティのためにオリジナルイラストとメッセージを送ってくださいました。かこ先生の想いは、アジアに届けた絵本を通じて、多くの子どもたちに伝わっているはずです。



オリジナルイラストとメッセージを使った一筆箋を制作し、販売してきました。  
1冊540円(税込)



©鈴木藍

## かこさとし先生のプロフィール

1926年福井県武生市(現在越前市)生まれ。東京大学工学部卒業。作品は絵本、童話、紙芝居など多岐にわたり500点以上。民間企業に勤務しながら、児童文化活動に携わり、休日には自作の紙芝居を使っておはなし会をされていました。1973年に勤務先を退社後、作家活動とともに、テレビのニュースキャスター、大学での児童文化や行動論の講師をつとめられました。また、海外の子どものための教育支援にも取り組まれ、パキスタン、ラオスなどで識字活動や障がい児教育などを行ってこられました。



「からすのパンやさん」  
(偕成社)

「たべものたび」  
(童心社)

## アジア各国に届けられた先生の絵本

	たべもの たび (童心社)	あなた のおへそ (童心社)	ははのは なし (福音館書店)	からすの パンやさん (偕成社)	だるまちゃん かみなりちゃん (福音館書店)
カンボジア	1650	1168	1	980	0
ラオス	351	250	0	229	267
ミャンマー (ビルマ) 難民キャンプ	90	0	202	0	329
ミャンマー	350	0	0	0	0
合計	2441	1418	203	1209	596
総合計	5,867冊				





# かすがいの ステツキ



1 山々に囲まれた国境沿いにある街には、さまざまな民族と宗教の人がいました。街はにぎわっていました。が、商人たちの競争、宗教対立、若者の政治的な運動のため、争いことがよく起ります。



2 冬のある日、旅人がやってきました。とても天気が悪かったので、旅人は洞窟の中に入りました。そして、木の枝を使って火を起こし、寒さから身を守るために暖まりました。



3 後から、裕福な商人、民族の長、宗教のリーダーが順番に洞窟の中に入ってきました。4人はみんな手にステツキを持っていて、握りしめ、黙ったまま火に当たっていました。

4

4 暗くなるにつれて寒くなってきました。しかし、もう枝は残っていません。彼らはみんな同じことを考えました。「誰かが攻撃してきたら、私は自分を守る必要がある。だからステツキを手放して火にくべることはできない」。彼らは互いに疑い、憎しみ合っています。



5

5 寒さで死にそうになり、ついに彼らは持っていたステツキを火の中に入れ、疑いや憎しみの気持ちも一緒に捨てました。火はすぐに大きくなり、彼らは再び暖まり、死から逃れました。そして彼らは共に穏やかに生活し、自分たちの街や国を発展させることを約束しました。



6

6 その後、街は平和になり、豊かになりました。人々はお互いに疑ったり憎しみ合ったりすることがなくなり、協力しながら幸せに暮らしました。



世界の現場から

# AIRMAIL

To 日本の皆さん From 活動の現場

このページでは、  
アジアの各国で活動する  
ボランティアの様子や  
スタッフを紹介します。

## From Myanmar

ミャンマー

支援活動は第2フェーズに入り、公共図書館活動の強化に加え、学校図書館への新しい取り組みを開始したミャンマー事務所。教育の変革期にある現地での活動内容を紹介します。



## From Nepal

ネパール

2015年の大地震での被災地域対象の復興支援事業をメインとしたネパール事務所。耐久性のある校舎の建設、防災教育、学校防災計画の策定、避難訓練などの活動を行っています。



みんなの笑顔をつくる  
世界のおやつ旅

ネパール事務所の総務/  
ロジスティック担当  
エキナさんの  
おすすめおやつ

ネパールのおやつ  
パニプリ  
पानी पूरी

見た目もかわいい人気スナック

パニプリはネパールやインドでよく食べられているおやつです。「パニ」は水、「プリ」は揚げたスナックやパンのことで、屋台で売られています。作り方は、小麦粉の生地をひと口サイズの球状になるよう油で揚げ、穴を開けます。そこに、蒸したじゃがいも、玉ねぎ、豆などがミックスされた具を入れます。さらにコリアンダー、タマリンド、ミックススパイスなどが入った水（塩味、酸味、少し辛味が混ざった味）を注いでできあがりです。最近では日本のインド・ネパール料理屋でも食べることができるようで、ぜひ一度試してみてください。



趣味は料理、ガーデニング、映画鑑賞



中の水をこぼさないように一口でぱくっと食べるのがコツです。

## Hot Topics

### ① 6月に学校図書コーナーがオープン!

ミャンマーのほとんどの学校には図書室がなく、目指すべき共通イメージを持つことは容易ではありません。本は貴重なもので、紛失しないように棚や箱に入れ、鍵をかけてしまうのがこれまでの習慣でした。子どもたちが読みたいときに読めるよう、本をオープンに置きスペースを開放するコンセプトは新しく、子どもたちのためになるということを理解してもらうまではまだ時間がかかりそうです。



### ② 世界で初!? 「タナカ」の紙芝居

7月はじめ、児童図書専門家のやべみつり先生を講師に迎え、現地の画家、作家、編集者を対象に児

童図書出版研修を行いました。手作り紙芝居の制作をテーマに、ミャンマーらしさを盛り込んだオリジナリティにあふれた作品作りに挑戦しました。ミャンマーの文化について改めて考えると、たくさんのアイデアが生まれました。今回、ミャンマー文化の代表と言える、日焼け止めや

美容化粧品で頬などに塗る「タナカ」に焦点を当てた紙芝居が誕生しました。とてもシンプルかつユニークな「タナカ」の紙芝居は、きっと世界で初めてだと思います。自分たちの文化について考え、改めて魅力に気づくという、そのプロセス自体に価値があるものだと感じました。

ミャンマー事務所 事業調整員  
伊藤杏子 いたうきようこ

#### PROFILE

ITメーカー勤務後、英国で教育と開発を学びに大学院留学の後、シャンティに入職。東京事務所でもアフガニスタンやミャンマー、ミャンマー（ビルマ）難民キャンプの事業担当を勤めた後、現職。



本  
の  
力  
を  
信  
じ  
る  
人  
々  
の  
声  
が  
や  
り  
が  
い  
に  
つ  
な  
が  
る

ミャンマーは現在、教育の変革期で、教育の質が問われ始めています。この先、みんなに愛される図書館活動であり続けるために、地元の人々の声を聞きながら協力し合い、活動を推進していく必要があります。図書館活動はこれから本番。子どもたちの未来への貢献のためがんばります。



## From Myanmar

ミャンマー

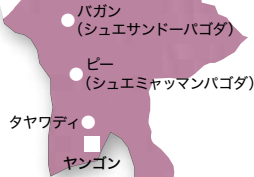
多民族が共存する独特の地域にあるミャンマー事務所。ミャンマーでの支援活動は4年目を迎え、次のステップへと進んでいます。



地元の人々と助け合い  
始まった次のステップ

ミャンマーでの活動は、今年から第2フェーズが始まり、公共図書館活動の強化に加え、学校図書館への新しい取り組みを開始しました。雨季の始まりの風雨荒れ狂うなか、対象8校への図書コーナー設置準備や教員研修などを実施しました。政府や学校、公共図書館関係者など、多くの人々に支えられ、新年度である6月から無事に学校図書館をオープンすることができました。事務所のあるビー県は、スパーなどもなく、多くの人は昔ながらの暮らしを営んでいます。よく停電するなど不便に感じるところもありますが、人々は温かく、常に助け合いの精神があり、つながりの強いコミュニティが存在しています。地域の人々の優しさに救われ、精神的に満たされることも多々あります。

Myanmar  
ミャンマー



地元のおすすめを  
紹介します！

仰の対象となりました。

ミャンマーが世界に誇る2大遺跡の  
おすすめポイントを教えます！

1つ目は、バガンのビュー王朝時代建立の  
仏教寺院、シュエサンダーパゴダ（写真①）。

2つ目は、ピーのシュエミヤツマンパゴダ

の建立者、ドウダバウン王の視力が悪化した

際、「大仏にメガネを寄付すれば回復する」

という逸話が残っています。以来、大仏にメガ

ネがかけられ、視力を回復させたい人々の信



業務  
開始



9:00 朝ミーティング

朝のミーティングに出た後、その日のスケジュールを確認します。



8:30 出勤

バイクで出勤します。



7:30 起床

7時半に起き、朝の支度をします。



8:00 朝食

朝食では、モヒンガーとナンジットをよく食べます。



9:30 メールチェック

Eメールを確認し、仕事に取り掛かります。



10:00

公共図書館のモニタリング

公共図書館のモニタリングに出掛けます。事務所に戻ってから、報告書を書きます。

以前からミャンマーの教育水準の低さと、図書の少なさに関心が  
ありました。あるとき、図書館活  
動を行う新しいNGOがミヤ  
ンマーに来ることを知り、「私も力に  
なれたら」と考え入職しました。

子どもたちの楽しそうな顔  
がモチベーション！



ミャンマー事務所  
アシスタントコーディネーター  
(公共図書館担当)  
ゼヤさんの1日に密着

PROFILE  
2014年6月入職。母と2人の兄がおり、  
妻と息子の3人暮らし。趣味はギター  
演奏、音楽鑑賞など。



19:00 夕食

普段は家で家族と一緒に食べま  
すが、夕食をすることもあります。



21:00 自由時間

映画を見たり、音楽を聴いたり  
ギターを弾いたりします。



23:00 就寝

ベットにお祈りをしてから、ベッ  
トに行きます。

## Hot Topics

### ① 国政選挙の実施

2017年12月に国政選挙が実施され、共産党が単独で3分の2の議席を確保しました。現政権は、NGOに対する規制を強化する政策を策定しています。シャンティが所属する国際NGOの連合体や、各国大使館、国連もNGOへの規制強化に懸念を表明しています。

### ② 地方選挙による変化と問題

2017年5月の地方選挙により、地方分権化が進み、7つの州政府と753の地方自治体が行政機構として発足。しかし、人員や施設、能力の



不足により、学校現場では教員が適切に配置されない、年度末試験が実施できない、教科書が配布されないなどの問題が起きています。

### ③ 教育予算

郡教育局が正式に廃止され、教育開発部に権限が委譲されました。行政機関を巻き込んだ事業展開は難しくなっていますが、建設資材運搬

のための道路の補修工事や建設後の学校の維持管理予算などを自治体が決定できるようになり、迅速な対応が可能となりました。

### ④ 約半数の校舎の再建が完了

2018年4月時点で、倒壊した7,553の校舎のうち、3,613校(48%)の再建が完了し、1,692校(22%)が工事中です。



ネパール事務所長  
三宅隆史 みやけたかふみ

### PROFILE

日本ユネスコ協会連盟勤務後、1994年シャンティに入職。海外事業課長、ミャンマー(ビルマ)難民事業事務所所長、企画調査室長、事務局次長、アフガニスタン事務所長を経て現職に至る。

地震の時、どうやって自分の身を守るのか。初めて見る紙芝居を通じて、子どもたちが知識を身に付け、被害を最小限に抑えられるようになってほしいと願っています。今後も子どもたちの教育環境改善と防災教育に、スタッフ一丸となって取り組んでいきます。

## 紙芝居での防災教育で自分を守る力を育む

現在は、耐震性の校舎の建設や図書コーナーの設置、防災教育、学校防災計画の策定、避難訓練などを行っています。防災教育では、ネパールで初めての防災紙芝居となる「地震はなぜ起こるの?」と「学校で地震が起きたら」の2タイトルを制作しました。

ネパールでは、2015年4月に起きた地震の被災地域を対象に復興支援事業を行っています。震災から5日後に緊急支援を開始し、2017年に事務所を開設。被災した36の学校の防災能力強化事業を実施してきました。震災から3年が経ちますが、被害を受けた学校の多くは山間部にあり、支援の手が届けることは容易ではありません。対象校の中には、標高1800メートルの場所に位置する学校もあります。

## 難しい地理条件下での支援活動に奮闘

ネパール

# From Nepal

ネパール

2015年の大地震後、紙芝居での防災教育や災害に強い学校建設などの支援を行うネパール事務所。現在のネパールの状況を紹介します。





### 地元のおすすめを紹介しします！

私のおすすめ観光スポットを3つ紹介します。1つ目は、スワヤンブナート（サルの寺）という、丘の頂上に建つストウーパ（仏塔）です（写真①）。仏教徒とヒンズー教徒両方の信仰を集めています。2つ目がシバプリ国立公園で、ここからカトマンズの町を一望することができます（写真②）。カトマンズから近く、町で2番目に高い丘にある国立公園で、標高2563mのショートハイキングコースでは、いろんな植物を見たり夕日を眺めたりすることができます。3つ目のおすすめが、ダルバール広場です（写真③）。かつての宮殿と寺院が建ち並ぶ広場です。たくさんのネパール人たちにぎわっています。

### 信仰深いネパールの神秘の観光スポット



#### 9:10 朝ミーティング

朝のミーティングで、1日の業務を確認します。



業務開始

#### 9:00 出勤

スクーターで出勤します。



#### 11:00 打ち合わせ

取引先と打ち合わせをします。



#### 15:00 デスクワーク

パソコンで必要な書類を準備します。



#### 18:30 自由時間

ガーデニングを楽しみます。テラスで豆、唐辛子、コリアンダーやトマトなどを育てています。



#### 7:30 朝食

家族と朝食。紅茶、ビスケット、パン、卵、それからフルーツを食べます。



#### 6:30 起床

家にある専用の部屋でお祈りすることから1日が始まります。

活動スタッフたちのサポートがお仕事！

ネパール事務所で、支援活動をサポートするための調整業務や人事を担当しています。日々、スタッフの皆さんが活動するために必要なビザの手配、車やドライバーの手配なども行います。また、事務所に通務しているすべてのスタッフの予定を管理したり、活動に関係するたくさんの方の文書を作成することも私の仕事です。日々の業務をこなしながら、文書を期日までに間に合わせたりするのは大変ですが、やりがいを感じています。



#### 19:30 夕食

この日の夕食はダルバート（ネパールの豆スープとごはんのセット）、野菜、チキンとピクルスです。



#### 22:00 就寝

歯を磨いて顔を洗って就寝。

From Nepal / ネパール

## 現地スタッフの1日

ヒマラヤ山脈を望む山の国、ネパールの現地スタッフの暮らしに注目！日本とは違った独特の生活や美しい観光名所を紹介します。

ネパール事務所  
総務、ロジスティクス担当  
エキナ・マーナダー  
さんの1日に密着



#### PROFILE

2017年4月に入社。父親、母親、弟との4人家族。趣味はガーデニング、映画鑑賞、水泳と読書。



## 新宿区立大久保図書館

館長 米田 雅朗

大久保図書館は、東京・新宿区の中でも特に外国籍の人口が多い大久保・百人町地区にあり、「多文化共生サービス」に力を入れています。大久保というと韓流ブームのイメージもあり、5年ほど前まで、韓国の人がとても多く住んでいました。ですが、ここ1、2年の間、ネパールやベトナム籍の人口が増え、タイ、フィリピン、ミャンマーなど「多国籍タウン」となっています。「お国はどちら？地球です」をキャッチコピーに掲げ、国境を超え、人種、思想、宗教などの枠を超え、差異を認めあい、誰もが平等に利用できる図書館を目指しています。

シャンティとの出会いは2012年頃。新宿区はアジアの方が多く、アジアのことをもっとよく知ろうと思い、シャンティの活動報告会に参加したことがきっかけでした。その後、シャンティの職員が大久保図書館を見学に来られ、シャンティが現地で出版したさまざまな国の絵本を展示したり、ネパール語の紙芝居を寄贈いただいたり、「絵本を届ける運動」のワークショップを図書館で開催してきました。

大久保図書館では、近隣に済む外国にルーツを持つお子さんのため、外国語の絵本を積極的に収集しています。韓国語、中国語、ネパール語など20を超える言語の絵本があります。

2012年の春、タガログ語が母語である少年にタガログ語の読み聞かせを手伝ってもらったことがあります。普段、日本語で苦労していた

彼が、母語を読むことでとても元気になりました。その姿を通して、母語に触れることの大切さを目の当たりにしました。

最近では、館内で外国の方が本を閲覧されている姿を毎日見かけます。「ネパール語の本はどこにありますか」と尋ねられたり、「タミル語の子ども向けの本が欲しい」とリクエストカードに英語で書かれていることも。大変ありがたいことに、いろいろな言語の絵本が全国から寄贈されるようになりました。

また、日本語支援の一環として「やさしい日本語の本を読んでみませんか？」というワークショップやアラビア語のおはなし会を行いました。家族を連れて参加されたエジプトの方が、一緒に参加された日本と中国の参加者と仲良くなりたいへん盛り上がりたこともありました。

いろいろな言語でおはなし

- ①韓国語で読み聞かせをしているところ
- ②大久保図書館の外観
- ③図書館内の様子
- ④多文化図書コーナーの本棚



会を開催することにより、さまざまな国籍の人たちが、自然に仲良くなっていく場面を何度も目にしました。世界の平和、国際交流は、決して日常から離れた遠い話ではなく、目の前の人と仲良くしていくことから始まるのだと実感しています。

「多文化共生サービス」は、地域に住む日本人の方々にマインリティの方についてより理解していただくためのサービスでもあります。そのうえで、①外国語資料の収集と外国語による絵本の読み聞かせ、②日本語支援、③生活に役立つ情報の発信を柱に、内容の充実・拡大をはかり、更に新境地を開いていきたいと考えています。多くの方に活動に賛同いただき、ゆっくりと着実に歩みを進めていきたいと思っています。

## 「平成30年7月豪雨」緊急救援活動を実施

西日本の記録的豪雨に伴い被害に遭われた方々に、心からお見舞い申し上げます。

歴史的な豪雨に伴い、特に被害が大きかった広島、岡山、愛媛の3県に職員を派遣し、調査を行いました。調査の結果、被害が甚大である一方、他団体の支援が手薄な地域で、中長期的な活動の際に連携して取り組んでいただける地元の団体がある愛媛県西予市を中心に活動を行うことを決めました。

### ▶被災地で心のケアを実施

西予市では、家の片づけなどを行っている住民やボランティアの方に塩あめやかき氷などを提供しながらお話を聞く「路上カフェ」を行い、避難所ではお茶などを出しながら地元のお坊さんを中心に被災者のお話を傾ける「ほっとサロン」などを行っています。



### ▶アジア各国から応援メッセージが届きました

豪雨被害の様子は、アジア各国でも広く報道されました。これまでシャンティが学校建設などを支援してきたカンボジアの学校やタイのスラム地域から、たくさんのお祈りと「Pray for Japan」というメッセージや写真が届いています。



### ▶今後の活動

今後は、物資配布、「路上カフェ」や「ほっとサロン」の実施運営、地元の読み聞かせグループの活動支援など、被災された方々のニーズと復興の段階や時期に合わせた支援を継続してまいります。

### 人事のお知らせ

#### ●異動

川村 圭 事業サポート課 → カンボジア事務所 (9月26日付)

シャンティ 2018年秋号 (通巻297号) | 2018年10月1日発行

発行人：若林恭英

発行所：公益社団法人シャンティ国際ボランティア会  
〒160-0015東京都新宿区大京町31 慈母会館2・3階  
TEL 03-5360-1233 FAX 03-5360-1220  
WEB：www.sva.or.jp E-Mail：info@sva.or.jp

編集人：関尚士、鈴木晶子

編集・制作：株式会社文化工房

印刷：株式会社サンエー印刷

当会へのご寄付は、所得税、住民税、および法人税、相続税の優遇措置が受けられます。  
©Shanti Volunteer Association.  
「シャンティ」は、FSC®森林認証紙にノンVOCインキ(石油系溶剤0%)で印刷しています。



サンジャナ・タマン12歳



サンジャナ・タマンの宝もの  
**農夫と水牛の話の本**

ネパール



これがわたしの一日

- 5:00 起床**  
顔を洗って髪をとかし、水を運んだり、朝食作りの手伝いをします。
- 7:00 朝食**  
紅茶とビスケットを食べます。
- 9:00 友達と一緒に登校**
- 10:00 授業**  
好きな科目は理科。自然や環境について勉強するのが面白いです。
- 13:15 お昼休み**  
麺やビスケットを食べ、友達とおしゃべりをします。
- 16:00 下校**  
帰宅後、おやつを食べて宿題をします。友達と遊ぶことも。
- 20:00 夕食**  
夕食はよくダルパート(ごはんと豆のスープの典型的なネパール料理)を食べます。
- 20:30 自由時間**  
夕飯を食べたら歯を磨いて寝る準備をします。勉強をすることもあります。
- 21:00 就寝**

趣味は勉強することと読書！  
ヌワコット郡にあるラムチャンドラ基礎教育学校(小中学校) 5年生のサンジャナです。8人兄弟で、3人の兄と2人の弟、2人の妹がいます。結婚している兄とその奥さんと子ども 私たちの両親を入れた12人で暮らしています。休みの日は家の掃除などのお手伝いをしますが、将来、医者になりたいと思っていますので、普段からたくさん勉強をしています。  
私の宝ものは、クラスの図書コーナーにある農夫と水牛の話の本です。あるとき、農夫が飼っている水牛が病気になってしまふのですが、農夫が一生懸命お世話をします。すると、元氣になった水牛がたくさんさんのミルクを出すようになるというお話です。良いことをすると、自分にもいいことがたくさん返ってくるという内容のお話が大好きです。